

●今月の断酒表彰

T	Hさん	南千里支部	断酒 19年
T	Tさん	吹田支部	断酒 25年
D	Sさん	南千里支部	断酒 25年

2023 (令和 5) 年4月 1日発行 No.242  
 編集・発行 事務局・広報部  
<https://kz925.com/dansyu>

**断酒表彰おめでとうございます。ますますのご活躍を期待いたします。**

**断酒に思う 135**

吹田支部 O・H

あれこれ、仕事が忙しくなり、断酒例会通いも途切れてしまっている。

それでも一応断酒は続いている。が、飲酒欲求が最近ムクムクと頭をもたげつつもある。

「もう10年たったのだから」、「そろそろ大丈夫」みたいなやつである。

そんなときは、できるだけ「飲酒時代」の出来事、やってきたことを思い出すようにしている。だんだんと、思い出せるネタは少なくなってきたが、まだ幾つかは思い出せる。

そのうちの1つを今回ここに書かせて頂くことにする。

連続飲酒が止まらなくなるとともに、食欲がなくなった。なくなったというより「固形物が入らなくなった」。おなかは減るが、食べられない……という、つらい状況。好物のバッテラ寿司が、口にはいらぬ。無理矢理口に入れても嚙下できない状態。医者に訴えても「これだけ、メタボになっていたら、死ぬことはない」と返される始末。

そんなとき、料理など減多にしなかった娘が、午後丸々台所にこもり、元嫁の反対を押し切る形で、「煮込みハンバーグ」を作ってくれた。「食べられるだけ食べて」「食べられなくても良いから」と。

食べようとしても「食べられない」「口に運ぶことすらできない」、食欲(食い気)はあるのに。「せっかく娘が、作ってくれたのに……」「食べたいのに、食べられないなんて……」。

悔しくて、涙がこぼれてきた。「次は、絶対に食べてやる」。

これが、断酒を決意した大きなきっかけとなった。



**断酒会規範**

**八 断酒会は酒害相談はもとより、啓発活動を通して社会に貢献する**

断酒会員の誠意ある説得で断酒会につながり、現在、「断酒幸福」を自らの手にした人は数え切れない。

われわれは断酒できた飲びを断酒会に感謝すると同時に、時間と労力をいささかも惜しむことなく、われわれのために誠意の限りをつくした先輩会員に心から感謝している。そして、そうした人間愛に充ちた行動が一部の会員に限らず、断酒会員全員の使命であり、断酒会の伝統であることを知った。

会員同士の一体感が自らの断酒を可能にし、断酒会を支える最大の力になっていることも知った。また、その一体感が会員だけに限らず、広く酒害者同士にもあるべきものだと理解し、現在、積極的に酒害相談活動に取り組むようになった。 〈中略〉

近年、アルコール依存症に対する社会の関心が高まり、われわれ断酒会員の役割は、酒害者だけが対象ではない時期になっている。

断酒会は元来、酒害者が自らの意思によって酒を断つ組織である、という認識で現在まで成長してきたが、もう一步踏み込んで考えると、断酒会は酒害者の最後のひとりも残さないという大目的を持つ組織であり、それは断酒会を必要としない社会をつくることでもある。

そうした悲願を達成するためには、酒害相談のみならず広く社会に向って酒害の怖ろしさを伝え、酒害者をつくらないための酒害啓発活動を行う必要がある。酒害の知識のない人、誤った知識を持っている人たちを啓発することで、過去、社会に何の貢献もできな

ったわれわれが、社会に貢献し、社会にとっても必要な人間になることができる。

断酒会は廃酒思想を持っていない。社会に酒のあることを容認しながら、自らの酒を否定する組織として発足したために社会に受け入れられた。断酒会は会員が姓名を名乗るといふ原則を持つことによつて、個々の存在が知られ、地域の多くの酒害者の断酒を可能にした。断酒会活動の最後にあるものは、酒害者をつくらないための啓発活動である。 (後略)

## みんなの広場

### 京都七福神巡り

吹田支部・I・S

昨年春ごろから始めた京都寺社仏閣巡りも回を重ねるごとに新しい発見があります

昨年訪れた場所でも半年以上経過すると人通りも変化していました。行動制限のない正月を迎えたせいもあるのですが、訪問客の姿も変化しています。意外と若い世代にも浸透していることがわかりました。団体旅行、個人旅行を問わず、ガイドブックあるいは観光案内をみながら巡拝している姿が多くみられました。

ガイドブックを見ると、松ヶ崎大黒天、東寺、六波羅蜜寺、行願寺、黄檗山萬福寺、京都ゑびす神社の七福神めぐりが掲載されていました

東寺は毘沙門天、六波羅蜜寺は弁財天、京都ゑびす神社はえびす様、黄檗山萬福寺は布袋尊、行願寺は寿老神、松ヶ崎大黒天は大黒天、そして赤山禅院は福祿寿とそれぞれを祀っています。東寺を訪問した時には、拝観受付時間ギリギリの時間でしたが、夕陽に映える五重塔に感動しながらなんとか拝観できました。新春のうちに巡拝すると功德があるとされているので、多くの方が巡拝されていました。京都ゑびす神社を訪問した時は、ちょうどゑびす祭りの最中であつたためにかなり混雑していました。

昨年巡拝した京都市内だけではなく、宇治市内にも足を延ばしてみました。中には、かなり急な石段



を登らないといけない松ヶ崎大黒天には少し苦勞しました。赤山禅院は京都の鬼門とされていることを知人から教わっていましたが、その意味が巡拝してその意味を理解することができました。

この七福神巡りと同時に他の寺社仏閣も巡拝しました。新しい発見といえば、あの閻魔王が『十王経』等においては地蔵菩薩と同一の存在と解され、地蔵菩薩の化身ともされていることを知りました。

この巡拝途中 IC チケットのトラブルというハプニングもありましたが、のべ5日間かけて巡拝することができました。満願成就の日付入りの色紙をいただいた時に、お寺のスタッフから「態々大阪からようお参りいただきました」の一言をかけていただき感無量となりました。(続く)



## お知らせ

● 3月11日、第13回ハートふれあいまつりに参加しました。パネル展示、アルコールパッチテストなどを通じて交流、啓発活動を行いました。

### ●池田市断酒会一日研修会

4月29日(日) 12:00~16:30  
陽松庵

### ●滋賀県断酒同友会 46周年記念例会

5月3日(水・祝) 12:30~16:00  
県立男女共同参画センター(近江八幡市)

### ●京都府断酒平安会創立50周年記念大会

5月7日(日) 10:30~16:00  
京都テルサ

